

《 アンケート結果からの考察 》

- 全体的に、昨年度に比べ、①～⑬の項目においてポイントが上回った項目が多く、下がった項目も数値的にわずかであり、生活と学習等、充実した学校生活を送ることができたことがうかがえます。

特に、「⑬ 学校の楽しさ」が3.65前後と非常に高い評価となっています。「学校が楽しい」と感じる理由の一つに「学習がわかる」があります。今年度は、「話すこと」「聞くこと」に力を入れてきました。授業の進め方を工夫することはもちろんのこと、朝学習（ちりつもタイム）ではテーマに沿って「ペアトーク」を繰り返し行ってきました。聞き手に伝わる「話し方」や話し手が共感してもらえていると感じる「聞き方」を意識して授業に取り組んできました。「話し方」「聞き方」が徐々に向上し、発表の仕方が上手になったり、聞く力が高まったりしたことで、学習の理解度も上がってきました。児童の「⑥基礎的な学力が身に付く」や「⑫思いを言葉や文章で伝える」のポイントが上昇しているのは、その表れの一つと考えます。

今年度は「投力向上週間」や「マット運動習慣」、「なわとび週間」などの体育的な活動も行われました。「⑦運動への取り組み」のポイントが上昇しているのは、このような活動などが行われてきたためと考えます。また、委員会活動企画で「クイズ大会」や「クリスマスイベント」なども行われ、児童にとって楽しい活動が多く行われました。

発表が上達した実感や学習の理解度が上がることにより、学習の楽しさを味わう機会が増えたり、学習以外の楽しい活動が増えたりしたことが「⑬学校の楽しさ」のポイントが高い要因につながったと考えます。今後も学校が楽しくなるような取り組みを行っていきます。

- 全国的にみても、大人も子供も読書離れが進んでいるためか、「⑤家で読書に取り組む」は、他の項目に比べやや低めの値となりました。しかし、昨年度に比べ児童と教職員は、上昇傾向にあります。それは、子供たちが本に親しめるよう、先生方による「シャッフル読み聞かせ」、季節にあわせた読書イベントを継続的に行ってきたことや、「みどり文庫」さんや「みのりの丘」さんによる定期的な読み聞かせの成果と考えます。さらに、今年度は、「ピブリオバトル」を行い、子ども自身が紹介したい本について説明をし合う活動を行いました。多くの本に触れ合う機会ができたり、本の魅力が伝わるような話し方を意識して取り組んだりしてきたこともよかったと思います。

本を読むことは心を豊かにし、思考力や集中力、生きていくために必要な力が身につく効果があります。今後も学校での取り組みを継続するとともに家庭とも連携を図り、より一層本（読書）に親しめるような活動について考え、実践していきたいと思います。

- 今年度は、創立50周年事業もあり、昨年度末から児童が主体的に活動する場面が多くありました。「スローガン」「航空写真や記念ロゴのイラスト」「連凧あげ」「運動会」「記念式典」など、実行委員会が中心になって取り組んできました。また、上記にあげた体育的活動や委員会活動の取り組みでも主体的に取り組む姿が見られました。それが「③決めたことは最後まで取り組む」のポイントの上昇につながったと考えます。今後も児童が主体的に取り組むことができるように努めていきます。

※自由記述欄には学校へのご意見やご提案、教職員への激励の言葉等をいただきました。貴重なご意見として受け止め、今後の教育活動に活かしてまいります。